

## ■第1回 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 会議録■

日時 : 平成20年7月23日（水）19時～21時

場所 : 武蔵野市役所 802 会議室

出席者 : 委員 本村清人、河上一雄、和田明子、守屋るり子、大町洋、島本康子、赤萩恵子、後藤信義、古矢武士、茨木信、金子俊治

欠席委員 : 本郷伸一

: 庁内ワーキングチーム 柴田直子、谷まりこ、浪本直子、関根和美、萩野友晴、岡野行男、松崎泰、鈴木早代子、富永清乃、大久保宏

欠席職員 : 森安東光

事務局 : 担当課職員 西川和延（生涯学習スポーツ課副参事）、茂木孝雄（生涯学習スポーツ課スポーツ振興係長）

: コンサルタント 黒崎晋司（株式会社 地域計画建築研究所）、木藤直隆（同左）

傍聴人 : 0 人

### － 議事要旨 －

□開会

□資料確認

本日の次第、策定委員会委員名簿、策定委員会ワーキングチーム名簿、「資料 1 スポーツ振興計画とは」「資料 2 他自治体の事例紹介」「資料 3 スポーツ振興計画概要」「資料 4 今後の進め方」、策定委員会設置要綱、策定委員会ワーキングチーム設置要領、傍聴者意見用紙、『スポーツに関する市民意識調査概要版（平成20年3月）』、『スポーツ市民意識調査報告書（平成20年3月）』、策定委員会会議日程、2013年東京国体チラシ、『第四期長期計画・調整計画（平成20年3月）』、『2007 武蔵野市市勢要覧』

□委嘱状交付（教育長が各委員に順次、委嘱状を交付した。）

□教育長挨拶

教 育 長：スポーツ振興計画は、スポーツ振興法にもとづいており、多摩地域でも制定する自治体が増えてきている。本市では、昭和 61 年に『市民スポーツ振興計画検討委員会最終報告書』という形で計画をつくったが、現在 22 年が経過しており時代も変わってきたと思う。これからの武蔵野市のスポーツをどのようにデザインするかが問われている状況にあると考える。このような背景から、本日より策定委員会を開催し、ご審議いただきたい。今回の計画策定にあたって、本市でも様々なスポーツ事業を展開している。それらを踏まえて策定するとともに、本市では生涯学習が盛んであることや、高齢化、少子化などの視点も踏まえ、10 年後の市民のスポーツをとりまく状況などを見据えた実効性のある武蔵野市らしいスポーツ振興計画の策定につなげていただきたい。

策定委員会の皆さまには、本市における生涯スポーツ社会の実現に向けて、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

□自己紹介（策定委員会委員、ワーキングチーム、事務局の順に、簡単な自己紹介をおこなった。）

□教育長退席

□正副委員長選出（事務局から選出方法について「推薦による選出」の提案があり、指名推薦にもとづき、正副委員長が選出された。）

事務局：委員長の推薦による選出について、どなたかご推薦いただけますでしょうか。

委員：学識経験者である本村委員をお願いしてはどうか。

事務局：学識経験者である本村委員をご推薦いただきましたが、ご異議はございませんか。

全員：異議なし。（委員長決定）

事務局：次に、副委員長の推薦による選出について、どなたかご推薦いただけますでしょうか。

委員：体育協会の河上委員をお願いしてはどうか。

事務局：河上委員をご推薦いただきましたが、ご異議はございませんか。

全員：異議なし。（副委員長決定）

□正副委員長の挨拶

委員長：副委員長に補佐していただきながら策定委員会を順調に進めてきたい。皆さまのご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

副委員長：委員長を補佐していきたいと思っている。今回のスポーツ振興計画では、ジュニア育成や高齢者の問題とともに、成人をどのようにスポーツに組み込んでいくのが大切だと思う。

□会議録等について

事務局：会議録の取扱いや委員会の開催等について、以下の内容を提案した。

- ・本日は策定委員会と市の策定委員会ワーキングチーム（以下「ワーキングチーム」という。）と合同で開催している。今後は、毎回合同という形ではなく、必要に応じてワーキングチームの職員も出席する形で進めていきたい。
- ・策定委員会は、本市の他の委員会と同じく原則公開で進めさせていただきたい。市報等にも会議録等の情報を載せていきたい。
- ・委員会の傍聴は、基本的に事前登録性という形でおこないたい。個人情報に関する事など、委員会で非公開の必要があると認めた場合は、非公開としたい。
- ・策定委員会の会議録は、会議での議論をＩＣレコーダーで録音をさせていただきたい。会議録は、本市の他の委員会と同じく、原則として市ホームページで公開させていただきたい。
- ・会議録については、読みやすさを考慮し、テープ起しによる一字一句の議事録ではなく、発言要旨を簡潔にまとめる形にしたい。発言者は、「委員長」「委員」「事務局」などと役職を記載することとしたい。
- ・写真について、委員会の様子などの写真撮影をおこないたい。

全員：異議なし。

□議事

（１）「資料１ スポーツ振興計画とは」

委員長：資料１、資料２について事務局の説明をお願いしたい。そのうえで、質問等の時間をとりたと思う。

事務局：「資料1 スポーツ振興計画とは」について、主に以下の内容を説明した。

- ・スポーツ振興計画は、国のスポーツ振興法ならびに法に規定されている国のスポーツ振興基本計画を踏まえて都道府県及び市区町村が策定する。
- ・今回の計画は、市の上位計画（第四期長期計画・調整計画）、関連計画等も踏まえるとともに、現在、東京都が策定中の『スポーツ振興基本計画』も参考としつつ策定する。
- ・市町村が定める『スポーツ振興計画』（一般型）として、例示した内容を説明。
- ・国が定める『スポーツ振興基本計画』（概要）について、①スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上、②地域におけるスポーツ環境の整備充実（早期に成人の週1回以上のスポーツ実施率50%を目指す。そのため、総合型地域スポーツクラブの全国展開を図る等）、③国際競技力の総合的な向上など、主な内容を説明した。
- ・本市の計画策定にあたって、特に①・②の内容が大切なポイントになると考えている。

## （2）「資料2 他自治体の事例紹介」

事務局：「資料2 他自治体の事例紹介」について、主に以下の内容を説明した。

- ・平成17年から平成20年に策定された近隣市の事例（三鷹市、青梅市、府中市、調布市、日野市、西東京市）、およびその他の市区町村の事例（豊島区、葛飾区、さいたま市、柏市）の計10自治体について、整理した内容を説明した。
- ・各事例について、主に基本理念、施策の体系、実現化方針・方策等を中心に武蔵野市にとって参考となる視点などについて説明した。

委員長：事務局からの説明について、ご質問やご意見等をお願いしたい。

国の計画について、昭和36年に制定されている『スポーツ振興法』の第1章「総則」第4条「計画の策定」とあるが、平成12年に初めて策定するまでは国の計画はなかった。それまでは、国の保健体育審議会の答申をもって、国の基本計画としてきたという経緯がある。国としては、平成12年に初めて計画を策定し、平成18年に改正をしており、目標年次は平成22年として数値目標を設定している。残された2年のなかでどこまで達成されるのか注目されるところである。

委員：「総合型地域スポーツクラブ」という用語の意味を教えてください。

事務局：国の『スポーツ振興基本計画』のなかで、地域での成人の週1回以上のスポーツ実施率50%を達成するために、地域でスポーツが「いつでも、だれでも、どこでも」できることを実践させる場として、様々なスポーツができるクラブを想定し、「総合型地域スポーツクラブ」が提唱されている。

「総合型地域スポーツクラブ」の理念は、「複数の種目があること」「子どもから高齢者、初心者からトップレベルの選手まで地域の誰もが年齢や興味・関心、技能のレベルに応じていつまでも活動できること」「活動できるクラブ、拠点となるクラブハウスがあり継続的に活動をおこなうことができること」「質の高い指導のもと、個々のスポーツ指導がおこなわれること」これらをもとに地域住民が主体的に運営するものとされている。他市町村では、先導的な役割として行政が支援し、つくった事例もあるが、自立した財政基盤をもって運営するところまでは行っていないのが実情と聞いている。

また、都内にある「総合型地域スポーツクラブ」のなかには、単一の種目しかないところもあるなど、地域の状況に応じて色々なパターンがあるのが実情であり、地方によっては、地域おこしの取り組みとして進めている自治体もある。

現在、武蔵野市には、「総合型地域スポーツクラブ」は無いが、コミュニティセンターの活動の中にスポーツに関する活動があるようなイメージになるのではないかとと思われる。

庁内WG：「資料 2 他自治体の事例紹介」について、ある程度、都市づくりの形成がなされているところで武蔵野市の参考になると考えられる自治体を抽出しているということか。各事例の内容を見るとほとんどの部分がソフト面に占められているように思う。

事務局：参考事例の選定に際しては、財政規模や土地利用の状況等は異なるが、多摩地域における似たような住宅地として近隣市ですでに策定されている計画を挙げた。そのうえで、特徴のある計画として、近隣市以外の市区町村の計画を選定した。これら以外の全国各地の事例については、インターネット等の検索により参照していただきたい。

今回、参考事例とした計画の内容や武蔵野市にとって参考となる視点等については、今後の委員会での議論のなかでご活用いただければと思う。

委員：各市の資料は非常に参考になると思う。ただし、全体的には高齢者のためのプログラムが少ないと感じた。さいたま市などでいくつかの施策があるが、今後、高齢社会のなかでのスポーツは大事な視点だと思う。社会の仕組みづくりとして、高齢者を活かした仕組みをつくってみたいと思っている。

一つの良い事例として、四国のある村では、介護保険の導入後、高齢者の健康づくりのために、高齢者に体を動かしてもらうことが必要と考え、高齢者に畑仕事を奨励し、その生産物が実際に経済として循環するような仕組みをつくり成功した事例がある。

スポーツの分野でも同じような形で成功する仕組みができるのではないかとと思う。個人的には、さいたま市の事例にある「ウォーキングによる地域防犯事業」などは面白いと思う。高齢者に関する施策で何か参考となるものがあれば提出してほしい。

委員長：次回の委員会に向けて、事務局で参考となる事例を探してみしてほしい。

### (3)「資料 3 スポーツ振興計画概要」

事務局：「資料 3 スポーツ振興計画概要」について、主に以下の内容を説明した。

- ・計画の内容については、今後、検討しつつ策定していくことになるが、これから議論を進めていく際に、基本的な視点や計画のイメージを共有化するための資料である。  
主に、視点 1（基本方針）、視点 2（対象者）、視点 3（ハードとソフト）、視点 4（課題と対応策）、視点 5（計画の実効性）、視点 6（期待される効果）といった、6 つの視点から検討していくことが基本になると考えている。
- ・視点 1（基本方針）について、「活かす」「つなぐ」「広げる」「支える」等の分かりやすいキーワードによって、既存の資源等の活用、地域での場づくり、きっかけづくり、スポーツ環境を支える仕組みづくりなどが重要な柱になると考えられる。
- ・視点 2（対象者）について、「子ども、働く世代、高齢者、障害者」などすべての人を対象として検討していくことが必要であると考ええる。
- ・視点 3（ハードとソフト）について、「場」「機会」「情報」「仕組み」それぞれについて

ハードとソフトの両面から検討することが必要と考える。

- ・視点 4（課題と対応策）について、課題を整理したうえで課題に対応した対応策の検討が必要であるが、その際、武蔵野らしさを踏まえた検討が大切である。
- ・視点 5（計画の実効性）について、計画の実効性を確保するために、計画推進の仕組みや計画の見直し・改善の仕組みについても検討することが必要であるとする。
- ・視点 6（期待される効果）について、スポーツ振興計画を通じて実現される武蔵野市の将来像等をイメージしながら検討することが必要である。

#### （4）「資料 4 今後の進め方」

事務局：「資料 4 今後の進め方」について、主に以下の予定について説明した。

- ・第 1 回、2 回委員会（7・8 月） 現地視察等も踏まえながら課題等の共有を図る。
- ・第 3 回、4 回委員会（8・10 月） 基本方針の検討をおこなう。
- ・第 5 回、6 回委員会（10 月・11 月） 中間まとめができる段階まで検討する。
- ・第 7 回、8 回委員会（12 月・来年 1 月） 計画案の検討をおこなう。
- ・第 9 回、10 回委員会（来年 2 月） 計画案を確定し、教育長に報告する。

委員長：今後、委員会で議論していく際には、「資料 3 スポーツ振興計画概要」のうち、視点 4（課題と対応策）と視点 5（計画の実効性）が重要になってくると思う。

また、かなりタイトなスケジュールだと思うので、策定委員会、ワーキングチームとも、大変だが気を引き締めて取組んでいかなければならないと思う。

資料について事務局からひと通り説明いただいた。ご意見等があればお願いしたい。

庁内WG：いくつか確認したい。

- ①今回のスポーツ振興計画は、22 年前の『市民スポーツ振興計画検討委員会最終報告』の見直しなのか、新規の策定になるのかどうか。
- ②本日の策定委員会は、策定委員とワーキングチームが合同でおこなっているが、今後のそれぞれの開催について教えてほしい。
- ③今後の委員会等の開催される基本的な時間帯の設定について教えてほしい。

事務局：①今回の計画は、見直しではなく、新規に策定することになると考えている。

- ②策定委員会とワーキングチームの合同開催については、今後、議論の進み具合によって必要に応じて合同会議を開くこととしたい。策定委員会とは別途、スポーツ振興係長を座長とする関係各課の職員による庁内ワーキングチームを開催する予定であり、場合によっては作業してもらうこともあると考えている。

当面、ワーキングチームでは、関係各課で実施している現行施策の整理と課題等の洗い出しについて資料の提出等をお願いしたい。

- ③策定委員会は、各委員の参加しやすい時間帯にしたいので、夜 7 時から約 2 時間以内での開催を基本に考えている。

副委員長：スポーツ振興計画の策定に向けて大切なことは、武蔵野市の現状がどうなのか、その課題は何かということである。「資料 3 スポーツ振興計画概要」には、そこまで示されていないが、計画策定のために、市民スポーツのあり方の現状とその課題の共有が必要である。

例えば、対象者の誰に重点をおくのか。子どもについて、市立・私立の学校に通っている子どもはどのくらいの割合なのか。次回の委員会で、現状と課題に関するデータを可能な限り提出してほしい。そのうえで、市としての考えや最終的な目標、例えば、健康増進、体力づくり、地域づくりなのか等について議論していく必要があると思う。

委員長：確かに現状分析は大切だと思う。ただ、非常にタイトな日程のなかで、各委員の計画イメージや議論の論点の共有化を、まずは図ろうということで、本日第1回の策定委員会では、「資料3 スポーツ振興計画概要」や「資料1 スポーツ振興計画とは」「資料2 他自治体の事例紹介」といった資料が事務局から提出されたと受け止めている。

そのうえで、すべての人を対象としつつも、どこに重点を置くのか、軽重も含めて今後、検討が必要だと思う。

庁内WG：根本的な質問になるが、この計画で言うスポーツの概念について、どこまでを考えれば良いのか。例えば、最近では、自宅でできるテレビやゲーム等のバーチャルな世界で体を動かすことも多くあるが、そういったものまでスポーツに含まれるのかどうか。

委員長：国の『スポーツ振興法』と『スポーツ振興基本計画』でもスポーツの定義が違ってきている。定義について、庁内のワーキングチームでも議論していただければと思う。

事務局：本日、提出した「資料3 スポーツ振興計画概要」の視点3（ハードとソフト）のなかに「場」という項目があり、ここでは、自宅でできるバーチャルなスポーツゲームのようなものも想定しているが、どのように位置付けていくかは検討が必要だと思う。

また、スポーツの定義について、『スポーツ振興法』では、「運動競技及び身体運動」として基本的には身体運動、体を動かすことを広く捉えており、東京都が現在策定中の『スポーツ振興基本計画』のなかでも「eスポーツ」として取り上げられている。

委員：スポーツの概念については、色々な意見があると思う。体を動かすこと（体操やダンス等）だけでなく、競技性のスポーツの振興なども含まれると思う。スポーツの定義・概念については、今後、議論を進めていくうえで統一が必要だと思う。

現状の課題・問題点について、事務局のほうから示していただきたい。

委員長：次回、現地視察も実施しつつ、現状や課題の整理などについて検討できればと思う。

□その他

事務局：年内12月までの委員会の日程について、以下の予定で良いか確認させていただきたい。

- ・第3回：8月26日   ・第4回：10月2日   ・第5回：10月23日
- ・第6回：11月18日   ・第7回：12月9日

全員：異議なし。

委員長：それではこれで、本日の策定委員会を終了したいと思います。

次回、第2回策定委員会の日程 8月7日（木）

- ・視察 16：30～18：30
- ・会議 19：00～21：00（会場 武蔵野総合体育館 3階視聴覚室）

以上